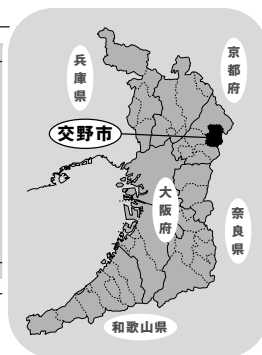


わたしのまちのPR

ピーアール

交野市編



交野市は、大阪の北東部、大阪の中心部と京都のほぼ中間に位置し、行政区域面積25.55km²の約半分を山地で占めています。

大阪市、京都市及び奈良市までの距離がいずれもおおむね20kmのところであり、古くからこの3都市の文化を吸収し、独自の風土を育んできました。

大都市の近郊という立地の下で、戦後急激に人口が増加し、昭和46年の市制施行を経て、住宅都市として豊かな明日への歩みを進めています。

この交野市の特徴などについて、交野市総務部企画調整室政策推進課長の中さんにお話をお聞きしてきました。



本日はどうぞよろしくお願いいたします。

早速ですが、交野市は、市域に金剛生駒紀泉国定公園を持つなど、緑あふれる住宅都市というイメージがありますが、交野のまちの特徴や景観について教えていただけますか。

よろしく申し上げます。

お話のように交野のまちは、山の自然、里の景観が、実に豊かに溶け合い、自然環境に恵まれたまちです。市域は、①急峻な斜面をもつ山地部、②天野川とその支流が作り出す水辺、③山麓から平地に広がるのどかな田園、④計画的に作られた質の高い住宅地など、「交野らしさ」を構成する景観・顔を持っています。

しかし、こうした交野らしい景観も、時代の流れや都市化の進展の中で失われていく恐れが強くなってきています。

そこで本市では、交野の景観を貴重な財産として

次世代に継承し、計画的に整備・創出していく工夫や市民主体のまちづくりを進めるため、平成11年に「景観まちづくり条例」を制定しました。

交野のまちの良さを生かしつつ、さらにより良い交野をとという願いこめた市民憲章「和」（日本一短い市民憲章）の理念のもと、市民等とのパートナーシップによる、水と緑をまもり、自然と文化の和むまちづくりを進めています。

山なみや麓に広がる田園風景など、まさに日本の原風景を大切にしながら、新しいまちづくりを進めているのですね。

そういえば、交野市のまちづくりのシンボルとして「星のまち☆かたの」をよく耳にしますが…。

本市では、豊かな山地自然の恵みと、歴史ロマンあふれる環境を生かし、水と緑が暮らしを彩る「星のまち☆かたの」の実現を目指しています。

交野から枚方にかけて、かつて交野が原^(※1)と呼ばれた地域には、中国から伝わった七夕伝説が残されており、市内には星や天空にちなんだ地名や伝説が多く残されています。

交野山山麓



天野川



たとえば「天野川」です。交野が原は、桓武天皇が延暦2年（783年）に鷹狩りのために行幸するなど、平安貴族の遊獵地として愛されていましたが、狩猟に訪れた宮廷人が歌合せの際に、古くから「あまの（甘野）」と呼ばれた地や「あまのかわ（甘野川）」といった川水を、夜の夜空に星の連なる「天の川」になぞらえ、その名が定着したようです。

- ※1 交野が原：天野川より北、生駒山系の西、石清水八幡宮の小さな山より南に広がるなだらかな丘陵。古くは桜の名所としても有名で、平安期の和歌には「かたの」の名も散見できる。
- 「またや見ん かた野の湊野の 桜狩り 花の雪散る 春のあけぼの」（藤原俊成「新古今和歌集」）

その他にも、星や天空にまつわる地名や伝説がありますか。

市の北東部に位置する倉治地区には、^{はたもの}機物神社があります。

呼称の由来は諸説ありますが、一説には、5～6世紀に秦の国から来た養蚕織布の技術を持つ人々を祭る社、すなわち「はたもの社」が、七夕や星にちなんだ地名と結びつき、「秦」が機織りの「機」になり、「機物神社」になったと考えられます。

この機物神社の祭神は、「^{あまのたなぼたひめのおおかみ}天棚機比売大神」^{たくはたちひめのおおかみ}「栲機千々比売命大神」です。当初は、農耕と産業をつかさどっていましたが、後に七夕伝説と結びついて、手芸・学問の神としても尊ばれるようになりました。

機物神社では古くから7月7日に例祭が行われていましたが、昭和54年から七夕祭りが復活し、境内に用意された青竹に、人々の願い事が書かれた色とりどりの短冊が飾られます。七夕祭りは年々盛り上がりを見せ、近隣からも大勢の参拝客が訪れ、祭り当日には、神主らが天野川に架かる逢合橋に出向き、笹流しの行事が行われます。

また南西部の星田地区にある、標高144mの妙見山には、「降星伝説（八丁三所）」^(※2)が伝わる星田妙見宮があります。

星田妙見宮のご神体である「^{いわくら}磐座」の大岩は、地元では古くから「^{おりめいし}織女石」と呼ばれています。この

機物神社 七夕祭り



星田妙見宮でも、古くから七夕の祭事が行われていたとされています。

- ※2 「降星伝説（八丁三所）」：弘法大師が^{ししくつ}獅子窟寺で秘法を唱えたときに七曜の星（北斗七星）が降り、星田妙見宮と光林寺、星の森の三箇所に分かれて地上に落ちたとされる伝説。この三箇所を結んだ一辺が、約八丁（約900m）あることから、八丁三所とも呼ばれる。

磐座の大岩



交野の地は、七夕の伝説と深く結びついているのですね。

そういえば、新しく市民手作りの「七夕まつり」を最近始められたとお伺いしましたが…。

昨年から観光振興の一環として、交野市星のまち

観光会議^(※3)が「天の川七夕まつり」を7月7日に開催しています。市民自ら山林にはびこる^{もようそうちく}孟宗竹を伐採して星形の模様などをくりぬいた約1,000基の竹灯籠を、天野川沿いの遊歩道約500mに並べ、地域の子どもたちが一斉に点火します。また、今年は、大阪府が整備した天野川の水辺プラザにも、高さ3m、幅8mもの巨大なモニュメントの灯籠を設置しました。さらに、市内を走る電鉄会社の協力を得て、小学生が作った大笹飾りを駅のホームに飾り付けます。今年は、昨年の約1.4倍となる約1万1千人の市民らが訪れ、人と水が織りなす幻想の世界に酔いしれていました。

天の川七夕まつり



※3 交野市星のまち観光会議：商工団体、商工会議所など関連18団体と市民により構成。「観光開発はせず、わがまちの宝を磨いて売り出そう」「理解と納得。市民の知恵と手で育てよう星のまち観光」をモットーに、わがまちの宝を市民の手で磨いて魅力あるものとし、「住んでよし 訪れてよし」のまちづくりと観光の両立を目指して活動。

未来へ七夕の伝承を継承するとともに、里山保全にもつながる、まさに、環境にやさしい手作りの七夕まつりですね。

他にも市内には星にちなんだ施設がたくさんあるそうですね。

府民の森「ほしだ園地」には、交野吊橋「星のブランコ」があります。この吊橋は、全長280m、最大地上高50mの全国最大級の木床板吊橋です。星のブランコからは、ほしだ園地の森が眼下に眺め、四季

折々に美しい姿を見ることができ、鳥になった気持ちで空中散歩を楽しむことができます。特に、紅葉の季節は見事で、年間約40万人の利用者があります。

また、「星の里いわふね」（市立いわふね自然の森スポーツ・文化センター）も多くの市民らで賑わっています。スポーツレクリエーションセンターや、ロッジ、キャンプ場、天体研修センターを兼ね備えた施設で、天体研修センターにあるプラネタリウムは、人々を星空の旅に誘ってくれます。

星のブランコ



星をテーマにしたまちづくりを進められるのは、豊かな自然が残り、それだけ美しい空気や水、緑があつてこそ、できるものなのですね。

以前実施した市民アンケートでも、交野のまちの印象として「水がおいしい」「緑が豊か」といったものが上位を占めました。実際、本市の水道水の約6割が地下水を利用しています。

こうした^{せいれつ}清潔な水や、肥沃な交野が原で収穫される良質な米を利用して、古くから地場産業も営まれました。市内には、大門酒造と山野酒造という府内を代表する2つの酒造があり、さわやかな香りとあっさりとした旨みの「^{りきゅうばい}利休梅」やたおやかな味わいの「^{かたのざくら}片野桜」は有名で、全国新酒鑑評会では、毎年のように両酒が金賞などを受賞しています。

綺麗な水ということ言えば、市域ではホテルも生息しているそうですね。

市南西部にある南星台地区では、住民の皆さんが「ホテルの里まちづくり委員会」を組織し、ビオト-

プ（生き物の生息空間）作りを通じたホタル育成の環境保全に取り組まれています。同地区では、20年以上前から住民の皆さんが、横を流れる傍示川^{ほうしがわ}の清掃など地域の環境整備と美化活動を行ってきました。その後、ビオトープ作りやホタルの育成を進められた結果、見事に源氏ボタルが乱舞するようになりました。さらに活動の対象を広げ、子どもたちの見守りや福祉活動など、住民の方々の手で活発にまちづくりが展開されています。

ホタルの里まちづくり



交野の皆さんの市民力、地域力は素晴らしいですね。

こうした市民のまちづくりへの意識の高さは、豊かな自然と多くの歴史文化資産が生み出す、まちの永住魅力、市民の永住志向の高さが関係していると思われまます。

そこで私たちは、市民の持つ様々な能力や経験、ネットワークなどを、交野の大きな財産と捉え、市民の活動をバックアップし、調整、コーディネートすることで、行政と市民の協働を促し、市民主体のまちづくりを目指しています。

詳しく教えていただけますか。

たとえば、交野の水と緑を守る担い手の育成を目指した「里山ボランティア」があります。里山は、地域の生活環境を保全し、地域固有の景観を形成するとともに、多様な生き物の生息場所を提供します。このような貴重な里山を守り、育てていくために、本市では里山指導員（ボランティア）の育成講座を

平成12年度から5年間実施しました。講座では、雑木林の下草刈りや人工林の間伐、竹林の除伐や竹炭の焼き方など、里山の保全に役立つ実習を盛り込みましたが、今では、講座の卒業生がボランティア団体を設立し、活動が市民の手によって受け継がれています。

まさに市民主体の取組ですね。最後に、交野市の今後のまちづくりの重点施策について教えてくださいませんか。

残念ながら財政状況が非常に厳しく、その健全化が最優先にならざるをえませんが、まちづくりの重点施策としては、まずは、「第二京阪道路」への対策です。現在、市域では平成21年度の開通を目指し、建設工事が進められています。既に大きな橋脚が立ち並びはじめており、まちの様子も変貌しつつあります。本市では市域の分断を防ぐための取組や自然環境・住環境への影響を軽減するための対策に努めるとともに、第二京阪道路供用後の環境監視等の充実を目指しています。

また、市民が将来にわたって自然と共生し、健康で文化的な生活を営むことのできる良好な環境を確保することを目指した「(仮称)環境基本条例」の平成20年度の制定に向けて準備を進めるとともに、市民の多様な知恵や技術、能力、高まる市民活動などを結びつけ、みんなで考え、知恵を出し合い、ともに汗を流しながら楽しくまちづくりを進めるための仕組みづくりを進めたいと考えています。とりわけ、市民との協働という事では、今年26日に「地域のチカラの輪(和)」と題する市民活動フォーラムを開催し、市民の皆さんとの意見交換を通じて、まちづくりの機運を盛り上げていくことにしています。

今後も様々な施策を通じながら、豊かな山地自然の恵みと、歴史ロマンあふれる環境を生かし、「いつまでも住み続けたい」と思えるような永住魅力あふれるまちを市民とともに創造していきます。

今後も「星のまち☆かたの」が、キラリと輝くまちとして発展されることを期待しております。本日は、お忙しい中、ありがとうございました。